

第5回観測データ利活用検証WGの報告

令和3年11月17日

観測データ利活用検証WG 主査

令和3年11月9日に開催した第5回観測データ利活用検証WGの内容は以下の通り。

検証結果

- ・都市度分類手法で定義されている都市域に限定してLCRPGR(人口増加率と土地利用率の比率)を計算した場合、タイル(*)全域を対象とした計算と比べ、大都市を含むタイルではPGR(人口増加率)が負から正に変化する傾向が見られた。
(*衛星データによる土地被覆分類図のデータの最小単位(緯度経度1x1度))
- ・人口データに基づく都市度分類の手法(UN-Habitatが作成したSDG指標11.3.1グローバルメタデータにおいて推奨されているもの。)は複数存在するところ、都市域に限定し、全国レベルでLCRPGRを評価するのであれば、一つの方法(都市度分類手法Level1)を用いるのみで十分であるという可能性が明らかになった。
- ・95%信頼区間を考慮し補正をしたLCRPGRでは、LCR(土地利用率)が負から正に変化する傾向が見られた。

今後の方針

- ・行政区界等を考慮したLCRPGRの試算
- ・UnHabitat(国際連合人間居住計画)等の試算値との比較
- ・数値標高モデルを用いた建物高さ情報利用の検証
- ・都市被覆分類図の検証点追加の検討

(参考)

令和2年9月30日に開催された第10回ビッグデータ連携会議で観測データ利活用検証WGを設置。以降、JAXAの地球観測衛星データを利活用したSDG指標の検証を実施。昨年度、観測データ利活用検証WGを3回開催し、SDG15.4.2(山地グリーンカバー指数)の検証を終え、令和3年8月4日(第4回WG)より、SDG11.3.1(人口増加率と土地利用率の比率)の検証を実施している。